



New way, New value

双日株式会社

証券コード：2768

双日と株主の皆さまとの
双方向コミュニケーション誌

2013 冬号

双

双日株式会



Sojitz Corporation

特集

双日株式会社 発足10周年企画

最前線の 双日パーソンが語る

これまでの10年、
これからの10年

当期の業績と今後の見通しについてお話しします。

株主の皆さまにおかれましては、日頃よりご支援とご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。世界経済の回復の兆しが見え始めているなかで、引き続き、テーマとして掲げている「成長軌道に向けた改革の推進」に取り組み、企業価値の向上を目指してまいります。

代表取締役社長

佐藤 洋二

Q 2014年3月期の第2四半期(累計)実績および
通期見通しについてお聞かせください。

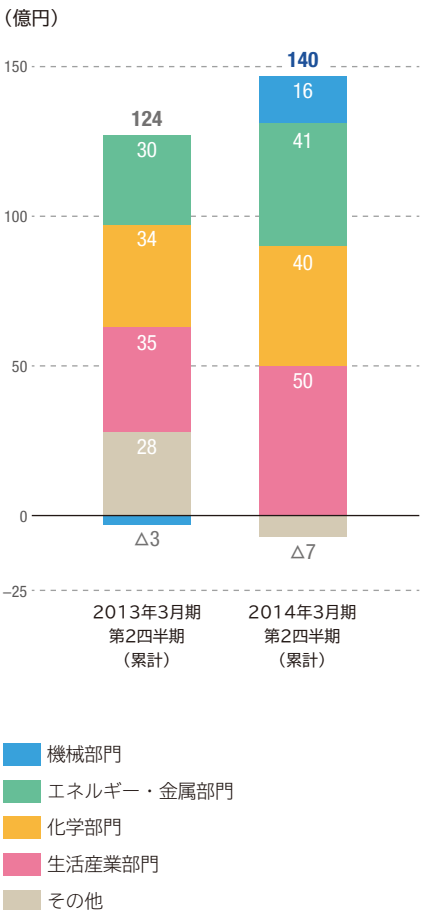
A 「中期経営計画2014」Change for Challenge」の2年目となる2013年度の当社グループを取り巻く経済環境は、新興国および資源国経済の景気減速が顕在化する一方、先進国における経済状況は比較的堅調に推移しました。特に日本経済については、日銀による大規模な金融緩和などによる好調な国内消費、円安、株高に支えられて堅調な成長を維持しています。

このような環境下、当社の今年度上期の実績は、海外の大型製鉄設備の納入、海外自動車事業、東南アジアにおける肥料や化学品取引が堅調であったことなどにより増収増益と

なり、売上総利益は前年同期比44億円増益の995億円となりました。当期純利益(当社株主帰属)も前年同期比16億円増益の140億円と、通期見通し250億円に対し56%の進捗率となりました。

今後も、日々変化する事業環境に機敏に対応しながら、資産の入れ替えと将来の成長につながる新規投資を着実に実行することにより資産の質を改善し、収益力の強化をさらに加速させ、「中期経営計画2014」の最終年度につなげるとともに、企業価値の向上のために、全力を尽くしてまいります。

**セグメント別当期純利益
(当社株主帰属)**



Q 2014年3月期の配当についてお聞かせください。

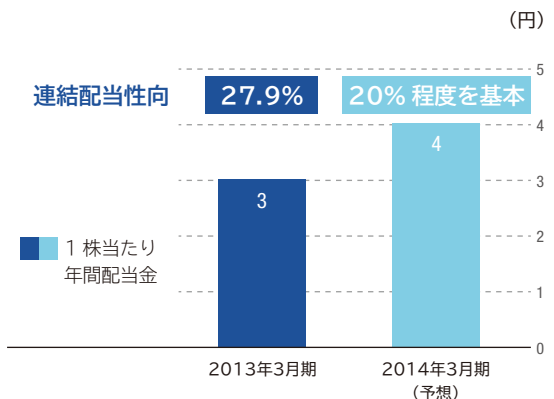
A 中間配当につきましては、期初の予定どおり、1株当たり2円とさせていただきます。当社の配当方針は引き続き連結配当性向20%程度を基本としておりますが、安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを、経営の重要課題のひとつと位置づけております。

2014年3月期の年間配当につきましては、1株当たり4円(中間2円、期末2円)の配当予想を変更していません。

年間配当は前期から1円の増配予想とはなるものの、株主の皆さまに十分にご満足いただける水準ではないことは承知しており、「中期経営計画2014」を確実に遂行し、株主の皆さまのご期待にお応えできるよう努力してまいります。

引き続き、当社グループへのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

配当金



双日グループ 企業理念

双日グループは、誠実な心で世界の経済や文化、人々の心をつなぎ、新たな豊かさを築きつづけます。

双日グループ スローガン

New way, New value

双日は、2003年の設立以来、新しいビジネスと価値を創出する総合会社として、国内外約450社の関係会社とともに世界各国の拠点を通じ、機械、エネルギー・金属、化学、生活産業の4分野にて事業を展開しております。



営業部門別当期純利益(当社株主帰属) 構成比

(2013年9月期)



機械部門	エネルギー・金属部門	化学部門	生活産業部門
<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車本部 ● インフラプロジェクト・産機本部 ● 船舶・宇宙航空本部 	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー本部 ● 石炭・原子力本部 ● 鉄鋼・金属資源本部 	<ul style="list-style-type: none"> ● 化学品本部 ● 環境資材本部 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食料本部 ● 農林資源本部 ● コンシューマーサービス・開発建設本部
現代タイ新社屋	豪州石炭事業	インドネシアのメタノール工場	ブラジルの穀物事業

2013年 4月~9月

🚢 機械部門
🌱 エネルギー・金属部門
🧪 化学部門
👨‍👩‍👧‍👦 生活産業部門
🏢 コーポレート

- 🚢 サウジアラビアIPP(独立系発電事業)「リヤドPP11」の商業運転開始
出力1,729メガワットのガス焼きコンバインドサイクル(複合発電)発電所
- 🚢 オマーンIPP(独立系発電事業)「ソハール2」「バルカ3」の商業運転開始 ①
合計発電容量1,488メガワットを供給
- 🚢 双日システムズ、アプリケーション仮想化の専門組織を立ち上げ、Windows®XPからの移行支援サービスに本格参入
独自IE互換ブラウザでWindows®7/8へのアプリケーション移行をフルサポート
- 🌱 カナダのジブラルタル銅鉱山拡張事業、フル生産到達に向け順調に操業 ②
生産能力を従来比1.6倍に増強、足元では能力比約9割の操業達成
- 🚢 ロシア1,700キロワット級ガスタービン5基の供給契約に調印
寒冷地ガスパイプラインのコンプレッサーステーション向け高性能装置
- 🚢 デリー~ムンバイ間貨物専用鉄道の軌道敷設工事を受注
円借款案件における契約規模として過去最大級
- 🌱 メタルワングループ、三井物産スチールと国内建設鋼材事業およびメタルスクラップ事業の統合に向け検討開始
- 🧪 パプアニューギニアでガス化学事業の調査を実施
パプアニューギニア政府と覚書に調印
- 👨‍👩‍👧‍👦 双日ロジスティクス、インドネシアに物流事業会社設立
陸・海・空のあらゆる輸送ニーズに対応
- 🚢 ロシア向け大規模アンモニアプラント建設プロジェクト
ルネッサンスヘビーインダストリー社と共同で受注
- 👨‍👩‍👧‍👦 ベトナムで初 工業団地内に給食センターを設け、入居企業の食事を提供
ギャラクシー・シダックスが Rondouk 工業団地で提供
- 👨‍👩‍👧‍👦 日商エレクトロニクスと KDDI ベトナム、Rondouk 工業団地に「Nissho-Blocks」基盤のクラウドサービスと IT コンシェルジュを提供
- 🧪 双日が提携する米ベンチャー ミリアントがバイオコハク酸の生産を開始
トウモロコシ由来の樹脂原料として日本・中国・韓国・台湾向けの販売を開始
- 🚢 日本国内4か所でメガソーラー事業に参入
青森六ヶ所村などで、パネル容量合計106メガワット
- 👨‍👩‍👧‍👦 ミャンマー最大の流通事業グループ
シティ・マート・グループと資本・業務提携
同グループと共同で、ミャンマーにおける生活消費財・食品の卸売事業を展開
- 👨‍👩‍👧‍👦 ベトナムの Rondouk 工業団地が完成
日系企業を中心とした裾野産業や輸出加工企業の誘致を目指す
- 🧪 メキシコでバライトの生産を開始 ③
メキシコに選鉱拠点を確保することで、ガス・原油の掘削液体向け材料を安定供給
- 👨‍👩‍👧‍👦 「EASTPAK」ブランドの直営店舗を原宿に新規オープン ④
コンセプトショップを通じブランドの世界観を発信し、事業展開を拡大



① オマーンIPP「バルカ3」



② カナダのジブラルタル銅鉱山



③ メキシコのバライト事業



④ EASTPAK

ビジネスニュース

双日グループ2013年度上期の事業活動の一部をご紹介します。

中期経営計画2014

～ Change for Challenge ～

さらなる飛躍に向けた新たな挑戦を果たすため、自らを変革し続けていく
この強い信念をもって、企業価値の向上を目指す

成長軌道に向けた改革の推進

資産の質を改善し、稼ぐ力を強化

成長のための投資継続（集中事業領域へ戦略配分）

創造性、効率性、高度なリスクマネージ力を持って事業展開ができる体制・組織の構築

グローバル化が加速する経済環境でも戦い抜ける事業モデルの変革と強い人材の育成

自己資本の積み上げによる財務基盤拡充

企業価値の向上、さらなる飛躍へ

資産入替

資産の質を改善し、稼ぐ力を強化

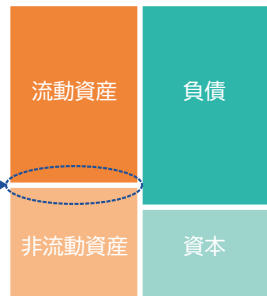
2012/3末 総資産
2兆1,907億円



中期経営計画前半 累計実績
(2012.4.1～2013.9.30)

投 融 資	640億円	1
資産圧縮	1,140億円	2
資金回収	810億円	

2013/9末 総資産
2兆1,655億円



2 中期経営計画前半 主な資産圧縮実績

- ・国内エネルギー関連事業売却
- ・資源権益売却
- ・国内不動産売却
- ・海外機械関連保有株式売却

資産売却

投融資

1 中期経営計画前半 主な投融資実績

- ・資源権益獲得、拡張
- ・中東IPP事業
- ・アフリカ水事業
- ・太陽光発電事業
- ・インド工業塩事業

投融資計画

投融資を加速させていく一方で、資産の入れ替えを継続し資産の質を改善

- 集中事業領域を中心にアジア、アフリカ、南米などの新興国の優良案件へ投融資を実行

- 環境変化にスピーディーに対応する体制で、柔軟に投融資を推進

- 中期経営計画期間中での収益積み上げを加速

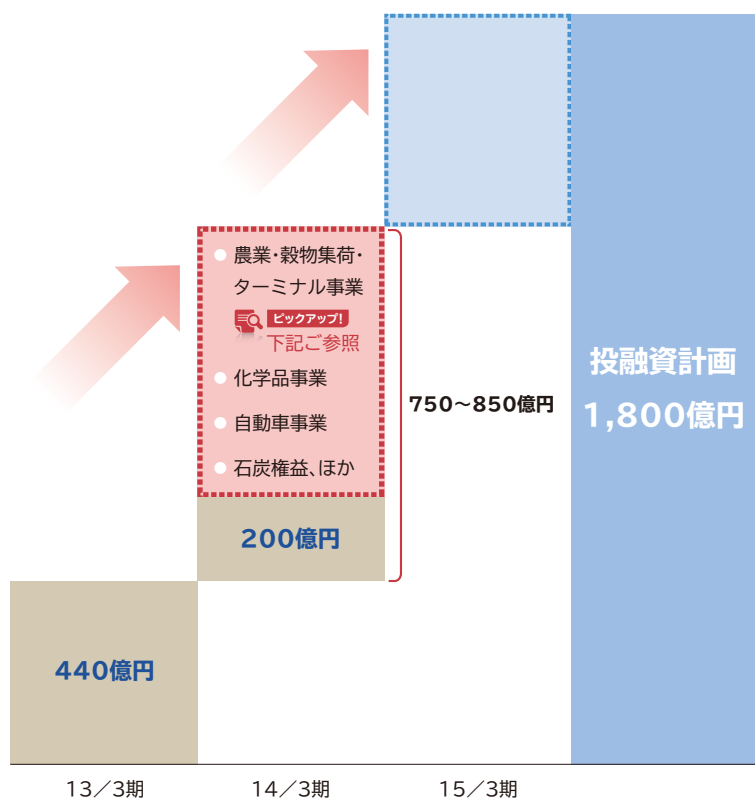
集中事業領域

安定的収益の拡大を図る事業領域

収益の拡充と構造転換を図る事業領域

将来の成長に備える事業領域

中期経営計画期間中の投融資イメージ



ピックアップ!

2013年10月22日

双日 ブラジルで農業・穀物集荷・ターミナル事業に出資

～南米・アジア間の農業・穀物バリューチェーンを拡充～

この事業を通じて、ブラジル産穀物の取り扱いを強化拡大し、人口増加と食の高度化に伴う、中国・アジアの穀物需要増に対応していきます。さらに、ブラジルの耕作不適地を農地開拓することで、食料資源の確保と供給安定化に寄与していきます。



港湾ターミナル完成図

詳しくは、

双日 ニュースリリース

検索

<http://www.sojitz.com/jp/news/>

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (億円)

	2014年3月期 第2四半期 (2013.4.1～2013.9.30)	2013年3月期 第2四半期 (2012.4.1～2012.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	418	475
投資活動によるキャッシュ・フロー	△123	△197
財務活動によるキャッシュ・フロー	△294	△518
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,280	3,962

主要経営指標

	2014年3月期 第2四半期末 (2013.9.30現在)	2013年3月期 期末 (2013.3.31現在)
ネット有利子負債	6,163億円	6,433億円
ネットDER(負債倍率)*	1.44倍	1.68倍
自己資本比率*	19.7%	17.8%

*非支配持分を除いて計算しています。

Q 2014年3月期の配当はいくらになりますか？

A 当社は、株主の皆さまに対して安定的かつ継続的な配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを経営の重要課題のひとつと位置づけ、連結配当性向を20%程度とすることを「中期経営計画2014」における基本方針としております。

2014年3月期の配当につきましては、中間配当は期初の予定どおり、1株当たり2円といたしました。また、年間4円(中間2円、期末2円)の配当予想も変更してありません。

基礎知識

IFRS導入後の主な変更点は？

● 損益計算書(純損益計算書)の主な変更点

- 売上高がなくなり、収益として表示されます。当社が価格変動リスク、在庫リスクを負わないような、代理人取引において、口銭(手数料)のみを収益とします(純額方式)。ただし、従来との比較のため、日本基準による売上高も参考情報として開示いたします。
- 営業活動に係る利益を表示しますが、日本基準の営業利益とは構成内容が変わります。
- 経常利益の概念がなくなり、特別損益の項目もなくなります。
- IFRSでの当期純利益は日本基準の少数株主損益調整前当期純利益に相当し、その内訳として開示する「当期純利益(当社株主帰属)」に帰属する金額が、日本基準の当期純利益に相当します。

● 当期純利益に影響を与える主な変更点

- のれんの定期的な償却がなくなり、利益の押し上げ効果があります。一方、資産の減損判定が厳しくなり、価値が低下すると直ちに減損損失を計上するため、より適時に資産の価値を財務諸表に反映することになります。
- 有価証券に関する売却損益・評価損が純損益計算書で計上されなくなり、その他の包括利益計算書に計上されます。

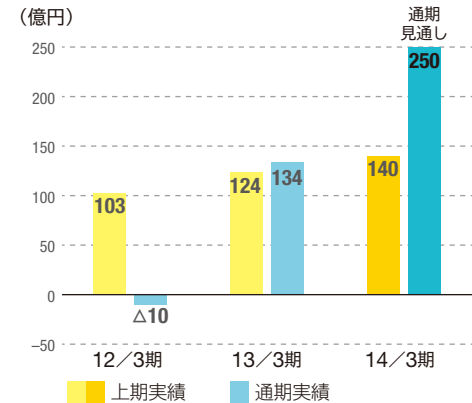
連結純損益計算書(要旨) (億円)

	2014年3月期 第2四半期 (2013.4.1～2013.9.30)	2013年3月期 第2四半期 (2012.4.1～2012.9.30)	増減額
売上高(日本基準)	20,022	19,598	424
売上総利益	995	951	44
販売費及び一般管理費	△766	△755	△11
営業活動に係る利益	213	194	19
税引前利益	263	194	69
当期純利益(当社株主帰属)	140	124	16
包括利益(当社株主帰属)	430	△130	560

連結財政状態計算書(要旨) (億円)

	2014年3月期 第2四半期末 (2013.9.30現在)	2013年3月期 期末 (2013.3.31現在)	増減額
流動資産	12,868	12,912	△44
非流動資産	8,787	8,589	198
総資産	21,655	21,501	154
流動負債	7,865	8,490	△625
非流動負債	9,199	8,898	301
総資本	4,591	4,113	478
負債及び資本	21,655	21,501	154

当期純利益(当社株主帰属)



Q 資産・負債の状況は？

A 資産については、株価の変動などに伴いその他の投資(非流動資産)が増加したことなどにより、前期末比増加しました。

負債については、債務及びその他の債務(流動)が減少したことや、返済に伴い借入金が増加したことなどにより、前期末比減少しました。

資本のうち当社株主に帰属する持分合計は、為替及び株価の変動などによるその他の資本の構成要素の改善や、親会社の所有者に帰属する四半期純利益の積み上がりにより、前期末比増加しました。

財務レポート

Q 決算のポイントは？

A 売上高(日本基準)は海外の大型製鉄設備の納入案件や海外自動車事業での増収などにより、増収となりました。

売上総利益は海外自動車事業や東南アジアにおける肥料および化学品関連取引が堅調であったことなどにより、増益となりました。

営業活動に係る利益の増加やバイオエタノール生産会社を連結除外した影響などに伴う持分法による投資損益の改善などにより、当期純利益(当社株主帰属)も増益となりました。

最前線の 双日パーソンが語る

これまでの10年、 これからの10年

双日グループの発足から10年。発足前後に双日パーソンとしての人生を歩み始めた新人社員たちは、それぞれの分野で経験を積み、現在は中堅社員として当社の中期経営計画の集中事業領域をはじめ、あらゆる分野の最前線で活躍しています。本特集では中堅社員3名が、自身と双日のこれまでの10年、今後の夢や目標について語ります。



私がニチメンに入社した2003年当時は、まだ経営再建中で投融資もままならない状況でした。しかし、先輩がコツコツと業務に励む姿を目の当たりにし、「この状況はいつまでも続かない。絶対乗り切るぞ」という強い気持ちを持ち、物流ビジネスの基礎を徹底的に叩き込んでいきました。この時期の経験はその後、私の商社パーソンとしての貴重な糧となっています。

統合後は、大阪の化学品部門で営業をしていました。当社の取引先だった米国企業（後のパートナーとなるCPC）がメキシコに保有するパライト鉱山を、同社と共同開発するというアイデアが生まれたのはこの時期です。パライトは、石油やガス掘削に必要な泥水の原料に使用されるため、シェールガスやシェールオイルの埋蔵量が豊富な米国や中南米で需要の拡大が見込まれ、その供給ソース確保は双日の中期経営計画における重要施策のひとつとしても位置づけられています。

2011年からは、ニューヨークの駐在員として、引き続きパライトの投融資案件を担当しました。大阪時代は投融資案件の経験はありませんでしたが、本案件に取り組むことで、チームが一丸となってひとつの事業を作り上げていくという、私が商社でやりたかったことを実現できました。現在はパライト鉱山のあるメキシコに駐在しています。駐在当初は文化の違いに戸惑いましたが、人口も多く、ビジネスチャンスの多いこの国で、今後も地場での一層の関係構築を図り、より多くの投融資案件を開拓していきたいと考えています。



「絶対乗り切る」という強い気持ちを持ち続けた



営業部門と管理部門での経験を活かし、夢を実現していきたい

平子 翔一郎 エネルギー・金属部門 コントローラー室

- | | | | |
|----------|------------------|----------|---------------------|
| 2004年 4月 | 双日株式会社入社 | 2010年 4月 | リスク管理第二部 |
| 2004年 5月 | 機械・宇宙航空部門 自動車第一部 | 2011年 1月 | 双日米国会社【ニューヨーク】 |
| 2005年 9月 | リスク管理部 第二課 | 2013年 9月 | エネルギー・金属部門 コントローラー室 |
| 2009年 4月 | 生活産業部門 企画業務室 | | |

学生時代から海外で働くことや商売の仕組みづくりに関心があり、総合商社を志望していました。私が入社した2004年4月は、ちょうど双日が発足したタイミングで、同期はわずか16名でした。個性のある企業同士の合併でしたので、2社分の大きなエネルギーを感じていました。

この10年間で思い出深い出来事といえば、入社6年目の1年間先輩とともに生活産業部門にリスク管理部から派遣されたことです。当社では合併から数年、事業投融資を思うように実行できなかった時期があります。そういった当社固有の背景を踏まえて、現場目線に立ちながらも管理部門の人間として営業活動の支援を行う、ということが求められました。私は営業部門と管理部門の双方を経験していましたので、現場目線に立つて案件構築の仕組みづくりから支援するという当時の業務にやりがいを感じていました。

その後はリスク管理部に戻り、米国駐在を経て、現在はエネルギー・金属部門のコントローラー室という部署に所属しています。このコントローラー室は中期経営計画を推進する上で重要な組織で、その業務は生活産業部門に派遣されていた当時の業務に通じるとこ

商社ならではの、収益貢献と社会貢献を実現する仕事をしたい



田淵 良敬 機械部門 電力・環境インフラ事業部 再生可能エネルギー課

- | | |
|----------|----------------------|
| 2002年 4月 | 日商岩井株式会社入社 |
| 2005年 2月 | 機械・宇宙航空部門 民間航空事業部 |
| 2007年 8月 | 双日米国会社【シアトル】 |
| 2009年 9月 | 人事総務部 研修生【バルセロナ（欧州）】 |
| 2013年 4月 | 機械部門 電力・環境インフラ事業部 |

現在は、太陽光発電を中心に、当社の中期経営計画の集中事業領域である再生可能エネルギー全般のプロジェクトに携わっています。再生可能エネルギー事業は長期間のプロジェクトになるため、専門知識や様々な経験に加え、あらゆる関係者からの「信頼」を勝ち取るための日々の努力が求められます。これまでの自分の経験、総合商社ならではの機能やネットワークを活かし、当社への収益貢献のみならず、社会に貢献できる仕事をしたいと考えています。



エネルギーシユな社員に惹かれ、また会社がピンチの時こそ、やりがいがあると思ひ、日商岩井への入社を決意しました。入社当時は、会社を去る社員が多く、覚悟していたよりも状況の厳しさを感じたことを思い出します。だからこそ統合して10年が経過した今、会社が前向きに舵を切っていることに感慨深い思いがあります。

私は、入社3年目より民間航空事業部に所属し、航空機のリース事業を担当しました。海外出張の機会を通じてあらゆる国でのビジネスを経験しましたが、特に思い出深い出来事は、双日がシンジケーションの幹事として30社近い企業をまとめ上げながら航空会社に対してファイナンスリースを行うプロジェクトを担当した時のことです。航空会社側に大きな問題が発生し、シンジケーションのメンバーから様々な厳しい要請を受けるなかで、関係者と丁寧な説明と粘り強い交渉を続け、シンジケーションメンバーからの信頼を損なわず、双日にとっても利益を生む最適な解決へと導くことができました。自分にとってこの経験は大変ドラマチックでやりがいを感じました。

2012年 「中期経営計画2014～Change for Challenge～」スタート

2009年 中期経営計画「Shine 2011」スタート

2006年 中期経営計画「New Stage 2008」スタート

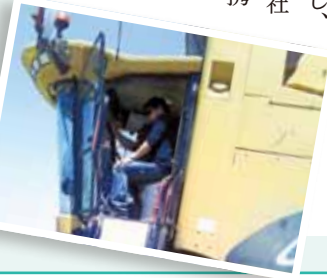
2004年 双日株式会社が発足

2003年 ニチメン・日商岩井ホールディングス株式会社設立



ろがあり、現場目線でのリスク管理業務の遂行や案件構築の支援を通じ、部門経営のスピードアップを図ることが目的とされています。室員それぞれが、部門のCFO（最高財務責任者）であるという意識を持つことが必要だと考え、日々の業務に取り組んでいます。

いつかコントローラー室での経験などを活かし、CFOの立場として当社の事業会社の経営に携わること、そして当社への収益貢献をもたらす事業を実現することが、私の目標です。



「これまでの10年、これからの10年」



① 代表取締役会長 加瀬 豊
② 代表取締役副会長 原 大
③ 代表取締役社長 佐藤 洋二
④ 代表取締役副社長執行役員 段谷 繁樹

⑤ 代表取締役専務執行役員 茂木 良夫
⑥ 取締役(非常勤) 指田 禎一
⑦ 取締役(非常勤) 長島 徹

さらなる飛躍に向けて変革と挑戦を推し進めます

代表取締役社長 佐藤 洋二

2014年3月期は、双日株式会社が発足し、10年という節目の年となります。

ニチメンと日商岩井が合併し、双日が誕生いたしました。この経営統合は、大幅な資産圧縮と損失処理の実行という再建から始まりました。

社内制度も風土も異なる2社が一丸となり、市場からの信頼回復に向け、あらゆる困難を克服してまいりました。その努力もあり、2008年には、すべての格付機関から、投資適格格付けを取得するに至ったのです。同年に起きたリーマンショックの後も、当社はリスク管理体制の強化と財務体質の改善を実行してまいりました。

当社がこの10年で着実に成長してこられたのは、全役員職員の努力と、すべてのステークホルダーの皆さまの深いご理解

とご支援の賜物でございます。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

過去10年は、経営再建という課題に尽力した年月でした。しかし、これからの10年は、飛躍に向けた年月となります。さらなる飛躍のため、昨年からはスタートした中期経営計画をやり遂げることが、次の10年への第一歩になると確信しております。この中期経営計画の重点テーマは、「稼ぐ力」つまり、「収益力の強化」につきます。「良質な資産」を積み上げ、「稼ぐ力」を向上させるため、私は先頭に立って変革と挑戦を推し進めてまいります。

企業価値の向上に向けて前進する双日グループに、今後とも変わらぬご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

空港で搭乗前に必ず受けるセキュリティチェック。

こんなところにも双日製品が活躍しています。

双日のグループ会社である双日エアロスペース(株)は、米国ラピスキャンシステムズの門型金属探知機を輸入販売しています。この門型金属探知機は、世界特許を取得しており、空港を始めとする施設の対人向けハイセキュリティ市場において、高い信頼性を獲得し圧倒的なシェアを誇っています。

双日グループは、最先端の技術を誇る製品を現場にお届けすることで、空の安全を守る重要なビジネスを展開しています。

詳しくは、

双日エアロスペース

検索

<http://www.sojitz-aero.com/>

第4回

空港の門型金属探知機



Meteor 6M

こんな
ところに
双日!



3分双日 3分でわかる双日の最新情報

もっと双日をご理解いただくために、3分でわかる双日の最新情報をいち早くお届けしています。

- ▶ 双日株価情報
- ▶ 双日ホットトピックス
今、最も熱い話題をご紹介します
- ▶ 双日グループWebから
- ▶ 双日グループ最新の商品情報
- ▶ 最近のお問い合わせ
- ▶ 社長の肉声



株主説明会

双日ウェブサイトでは、これまで開催した株主説明会の映像をご覧いただけます。

直近の2013年9月に開催した福岡での株主説明会の映像も配信中です。



双日は、株主・個人投資家の皆さまとの双方向コミュニケーションを目指しており、当社ウェブサイトの情報開示に力を入れています。

双日

ご紹介
ウェブサイトの

詳しくは、

双日 個人投資家

検索

<http://www.sojitz.com/jp/ir/individual/>



株主アンケートのお願い

アンケート実施期間
2013年12月16日まで

当社は、株主の皆さまのお声をいただいて、IR活動を充実してまいりたいと考えております。つきましては、下記アンケートサイトにアクセスいただき、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。ご回答いただいた株主さまの中から抽選で1,000名さまにクオカード(500円分)をプレゼントいたします。
(当選者の発表は、2014年1月下旬のクオカードの発送をもって代えさせていただきます。)



抽選で

1,000
名さまに

クオカード
(500円分)
を
プレゼント

STEP
1

アンケートサイトへのアクセス方法

株主ひろば

検索

または、下記URLを入力

パソコン <http://kabuhiro.jp/>

携帯電話 <http://kabuhiro.jp/m/>

携帯電話用QRコード



アンケート結果については、2014年6月下旬発行予定の「双」2014夏号にてご報告いたします。

アンケート項目(一部抜粋)

- 「双」2013冬号のご感想
- リニューアルした当社ウェブサイトのどの項目に興味をお持ちでしょうか?
- 当社株式の保有方針

STEP
2

ご回答方法

画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー **sojitz** を入力して回答画面にお進みください。



このアンケートは、諸費用(郵便料金など)の削減と集計作業の迅速化を目的として、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しております。

ご回答の操作方法などのお問い合わせ先

株式会社アイ・アール ジャパン 株主ひろば事務局

☎ **0120-197-900** E-mail: inquiry@kabuhiro.jp
平日 10:00~12:00/13:00~17:00 (2013年12月16日まで)

! ご注意

入力いただいた個人情報は、議決権行使に関するご案内や、株主さま向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。予めご了承の上、ご回答ください。また、アンケートサイトをご利用いただく際のプロバイダーへの接続料金および通信事業者への通話料金(電話料など)は、株主さまのご負担となります。

大阪 株主説明会 開催のご案内



2014年3月に大阪におきまして、株主説明会を開催いたします。

2012年4月にスタートした「中期経営計画2014～Change for Challenge～」を中心に、今後の事業展開など、株主価値向上に向けた取り組みについてご説明させていただきたいと存じます。

当社をより深くご理解いただける機会になれば幸いです。

皆さまのご参加をお待ちしております。

- 会場収容人数の都合上、抽選とさせていただきます。
- 抽選の結果は、入場票の発送をもってご当選者の発表に代えさせていただきます(入場票は2014年2月上旬発送予定です)。
- ご入場は、当社から発送した入場票をお持ちの株主さまご本人限りとさせていただきます。

開催日	2014年3月3日(月曜日)
時間	午後2時～午後4時
場所	大阪市内のホテル
当社出席者	取締役ほか
お申込み方法	同封の返信用はがきに必要な事項をご記入の上、ご投函ください。
お申込み締め切り	2013年12月24日(火曜日)必着

! ご注意

※ 個人情報保護のため、同封の保護シールのはく離紙をはがし、返信用はがきの個人情報記載欄の上にシールを貼りつけてから、ご投函ください(切手は不要です)。

※ 会場までの交通費は株主さまご本人のご負担となります。

※ 参加申込用はがきにご記入いただいた個人情報は、議決権行使に関するご案内や株主さま向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。予めご了承の上、お申込みください。

前回の2013年9月2日に開催しました福岡株主説明会の映像は、下記よりご覧いただけます。

双日 福岡株主説明会

検索

<http://www.sojitz.com/jp/ir/meetings/share/>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎事業年度終了後3カ月以内
株主名簿管理人 特別口座の口座 管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 (証券コード：2768) *当社は東京・大阪両証券取引所に上場して おりましたが、大阪証券取引所は2013年 7月16日付をもって東京証券取引所と市場 統合を行ったため、当社の上場証券取引所は 東京証券取引所となっております。
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.sojitz.com/jp/koukou/ *ただし、事故その他やむを得ない事由によっ て電子公告による公告をできない場合は、 日本経済新聞に掲載する方法により公告いた します。

株式の状況	(2013年9月30日現在)
発行可能株式総数	2,500,000,000株
発行済株式総数	1,251,499,501株
株主数	178,000名

会社情報

会社概要	(2013年9月30日現在)
会社名	双日株式会社
英文名	Sojitz Corporation
設立	2003年4月1日
資本金	160,339百万円
事業目的	総合商社
本社所在地	〒100-8691 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号
TEL	03-6871-5000
FAX	03-6871-2430
URL	http://www.sojitz.com/
拠点数	国内 7(支店、国内法人等) 海外 88(現地法人、駐在員事務所等)

役員	(2013年9月30日現在)
代表取締役会長	加瀬 豊 (かせ ゆたか)
代表取締役副会長	原 大 (はら たかし)
代表取締役社長	佐藤 洋二 (さとう ようじ)
代表取締役副社長執行役員	段谷 繁樹 (だんたに しげき)
代表取締役専務執行役員	茂木 良夫 (もぎ よしお)
取締役(非常勤)	指田 禎一 (さしだ よしかず)
	長島 徹 (ながしま とおる)
監査役	松本 順 (まつもと じゅん)
	尾島 洋一 (おじま よういち)
監査役(非常勤)	町田 幸雄 (まちだ ゆきお)
	瀬古 美喜 (せこ みき)
	津谷 忠男 (つや ただお)

払渡しの期間終了後のお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部

 0120-232-711 (通話料無料)

土日、祝祭日を除く平日
9:00 ~ 17:00

中期における中間配当については、期初の予定どおり、1株当たり2円といたしました。配当金は、2013年12月3日以降お受け取りいただけます。
なお、ゆうちょ銀行または郵便局で受領される場合の払渡しの期間は、2013年12月3日から2014年1月10日までとなっております。

中間配当のご案内

編集後記

「双」2013冬号をご覧いただき、ありがとうございます。

2003年4月にニチメンと日商岩井が経営統合し、2004年に双日となつてから、10年の節目を迎えます。

今回の特集では、双日の次の10年を担っていく中堅社員に、この10年で培ってきた事業、信頼関係、組織を熱く語ってもらいました。

次の10年、次の100年とバトンをつなげてゆくため、双日の明日を創る中堅社員の活躍を、一読いただけましたら幸いです。

今回の「双」2014夏号は、2014年6月下旬に発行予定です。

皆さま、どうぞご期待ください。

双日株式会社 IR室

株主カレンダー

2014年	
2月上旬	2014年3月期 第3四半期 決算発表・説明会
3月3日	大阪 株主説明会
5月上旬	2014年3月期 決算発表・説明会
6月下旬	第11回 定時株主総会

将来情報に関する注記

本報告書に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。



双日株式会社